

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 欠席委員連絡（浜野委員）
- 

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 開会宣告
  - ・ 議題の確認
- 

1 所管事務調査事項に係る協議について

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 議題宣告
- ・ 調査事項に関わっては、7月5日の民生常任委員会後、各委員から、何か提案があれば7月中旬までに事務局へ提出していただくようお願いしていたが、提出がなかったので、正副において案を示したいが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、調査事項の候補についてだが、近年は、世界中でプラスチックごみによる海洋汚染が深刻化し、世界全体で年間数百万トンを超えるプラスチックごみが海洋に流出していると推計され、日本沿岸においても、環境汚染により、生態系、生活環境、漁業、観光等への悪影響が懸念されている。こうした問題の解決には、国レベルでの施策や連携、地方公共団体の取り組み、企業や市民一人一人が意識ある行動を起こさなければならないと考えられる。中でも、本市は、三方を海に囲まれ、水産資源が豊富である地理的・自然的な特徴を持ち、古くから海と深い関わりを持ちながら発展してきたところではあるが、同取り組み開始から10年が経過し、今後は海洋プラスチックごみ問題に真正面から取り組み、国内各都市のモデルとなる「世界に誇れる環境都市」を実現し、未来に生きる世代が安心して暮らせる環境を引き継いでいかなければならないと考えている。そこで、正副の案としては、海洋プラスチックごみ削減への取り組みについて調査してはどうかと考えており、本件について資料を作成しているので、事務局に配付させる。

（資料配付：海洋プラスチックごみ削減への取り組みについて（正副委員長調製））

- ・ 資料説明：海洋プラスチックごみ削減への取り組みについて（当日配付資料）
- ・ ただいま、資料について説明させていただいたが、調査事件として取り扱うかどうか協議させていただきたいと思うが、各委員から、何か発言あるか。

○藤井 辰吉委員

- ・ 海洋プラスチックごみ削減への取り組みについてというタイトルで異論はない。一応確認させていただきたいのだが、中国の廃プラスチック資源の禁輸とかマレーシアの一旦受け入れたものをまたその国に送り返すとかというのではなくて、要するに陸上でのプラスチック資源のリサイクル云々とかではなく、あくまで海洋の汚染に関するプラスチックの調査ということか。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 通じると思っている。海洋となっているが、陸で努力するものが海洋で結果として出てくるので。

○藤井 辰吉委員

- ・ あくまで今回のテーマは海洋汚染の、という目線でということか。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ はい。

○藤井 辰吉委員

- ・ わかった。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 汚染をさせないためにどのように努力をしていくのか。また、国からもいろいろ発信されているが、いろいろな先進的な取り組みだとか、その辺を。今後資料を揃えながらこの都市を、というふうになるかと思うが、一応今日はテーマと目標というところで。

○小山 直子委員

- ・ うちの会派としてもその話をしていて、この問題に取り組むということに異論はないのだが、海洋プラスチックごみ対策となれば、ものすごく広い範囲のことになるのではないか。そのことがこの一常任委員会でどこまでできるのか。それから市にどんな提言ができるのかと考えたときには、どういう対策を考えていくのかという意味では絞った形で進めないと、漂着物の問題だと外国との関係の問題とかいろいろ出てきてしまうので。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ G20の話とか。だから私たちは市議会なので、市民レベルで何ができるのかというところに絞ってということになるのかと。そして他都市が市民レベルでどういうことを先進的に、また、新しくやっている国の対策に対してどのように呼応しているのかということ。函館市の取り組みを経過としてしっかり聞いた上でのことになるかと思うが。企業がやらなければならないこともたくさんある。だから広げると大変なことになるので、やっぱり市民レベルでのということになるかと思う。そういう視点を持っているが、よろしいか。

○松宮 健治委員

- ・ 基本的にこれは是非取り組んでいただきたいと思っている。実は市民の方から再三にわたって海洋プラスチックごみについて函館市はどう取り組むのかと要請を受けていて、非常にタイムリーだと思っている。一人しゃべるといことは周囲の方もいるので、かなり関心は高いし、また、周りが海なので、特に函館市議会の取り組みをできれば全国に発信できれば、モデルケースになればと思っていた。すべてはなかなかできないと思うが、函館市議会としてできることをしっかり発信することが大事かと思うので、小山委員が話していたように絞って、これはというものを。そういう意味では市民レベルでできることを、市議会のできることを是非取り組んでいただきたい。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 私たちが企業にどうこうということにはまずならない。まずは市民レベルということで。他に発言あるか。

○吉田 崇仁委員

- ・ 東南アジアとかすごく多い。うちのほうに汐首町というところがあり、その汐首漁港に船だまりがあるのだが、そこが年々ごみの量が — プラスチックのごみの量が相当多くなっている。特にこの函館は北海道でもプラスチックのごみの流れが多いところなのだそう。漂着物のプラスチックが。一回視察でごらんになれば、ごみのすごさがわかると思う。遠くも大事だが、近くにもそういうところがある。それで風に飛ぶ。軽いから。それから民家のガラスに — 窓にぶつかってくる。飛んでくる。大変苦労しているみたいだ。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 水産学部でも、空港で展示会をやったりと全体的に函館市としても意識が上がっているときなのかなど。注目度が上がっているというか。

○吉田 崇仁委員

- ・ 先ほど松宮委員が言ったように、函館がモデルになって、先に立って、プラスチックごみに対する認識を深めればすごい効果だと思う。これはだめだという、どんどんたまっていくごみを諦めたらだめだ。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 観光地でもあり、海に四方を囲まれている函館ということで、市民レベルで何ができるのかというところを皆さんから出たようにしっかりした提言を調査によりしていくということが私は大事だと思っているので、そういう調査にできればしていきたいと。
- ・ 他に発言あるか。（なし）
- ・ それでは、海洋プラスチックごみ削減への取り組みについて説明させていただいたことをポイントに調査事件とすることでよろしいか。（異議なし）
- ・ 次回以降の進め方についてだが、まずは、理事者から、本市の現状等を捕捉できる資料の説明を受けたのち、課題などを整理した上で、他都市の取り組み事例も含めて調査を行ってまいりたいと思うが、そのような進め方でよろしいか。今、皆さんから意見があったように、ポイントを絞るということをしっかり正副で受けとめながら資料作成、部局とのやりとりをしていきたいと考えている。（異議なし）
- ・ それでは、他に各委員から発言あるか。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 吉田委員が言っていた汐首の調査は必要か。

○吉田 崇仁委員

- ・ いいでしょう。遠くを見た方がいい。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ これで終わりではないので。まずは函館市の状況 — 多分その話も出てくるのではないかと思うので、その上でまず函館市を見に行こうかという場合もあるかと思う。まず函館市の状況を部局から聞くということで。
- ・ その他、本件について、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 議題集結宣告

---

2 その他

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午後 1 時49分散会